

三卷
七

南柯後

前篇

六

~13
3909
6



りのと鬻ぐ。汝ありやと信ふ。お七登り。おのれをうらその商人より
假をせめさる。べうりや。と信ふ。お七登り。おのれをうらその商人より
入もあらうれあふ。家来あるが。家来つた。久しうの律。返留
ぬひつ。妻の松の。お七登り。おのれをうらその商人より
買。りく。お七登り。おのれをうらその商人より
ひとら。お七登り。おのれをうらその商人より
の。偶を。お七登り。おのれをうらその商人より
も。お七登り。おのれをうらその商人より
凡五六貫の。お七登り。おのれをうらその商人より
く。又。お七登り。おのれをうらその商人より
も。又。お七登り。おのれをうらその商人より

まじして。お七登り。おのれをうらその商人より
ま。お七登り。おのれをうらその商人より
十。お七登り。おのれをうらその商人より
家。お七登り。おのれをうらその商人より
同。お七登り。おのれをうらその商人より
ゆ。お七登り。おのれをうらその商人より
お。お七登り。おのれをうらその商人より
今。お七登り。おのれをうらその商人より
お。お七登り。おのれをうらその商人より
い。お七登り。おのれをうらその商人より
お。お七登り。おのれをうらその商人より

ぐ。おれも二十両の價物なりけれど。大晦日とて。結えて進らざらん。
 價の只今。おれもつてもあるべし。おれもあつてもあるべし。おれもあつてもあるべし。
 而て押戴た毒果て懐は袂に。假毛を悉箱より出さる。これをも可なり。
 痛ま。おれも空擔を背負て。おれも中。おれも中。おれも中。
 氣をよまへえと哀れあり。おれも中。おれも中。おれも中。
 才七が長所ある家を窺ひ折ら。彼を打殺して。二務を棄ひ去り。
 宿恨を消さんとして。二人うちつれま。長所へおくおれも。大和橋ある
 客店より。才七が鞆の金をはきく。おれも中。おれも中。おれも中。
 人あり。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 と年の後。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 門方。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。

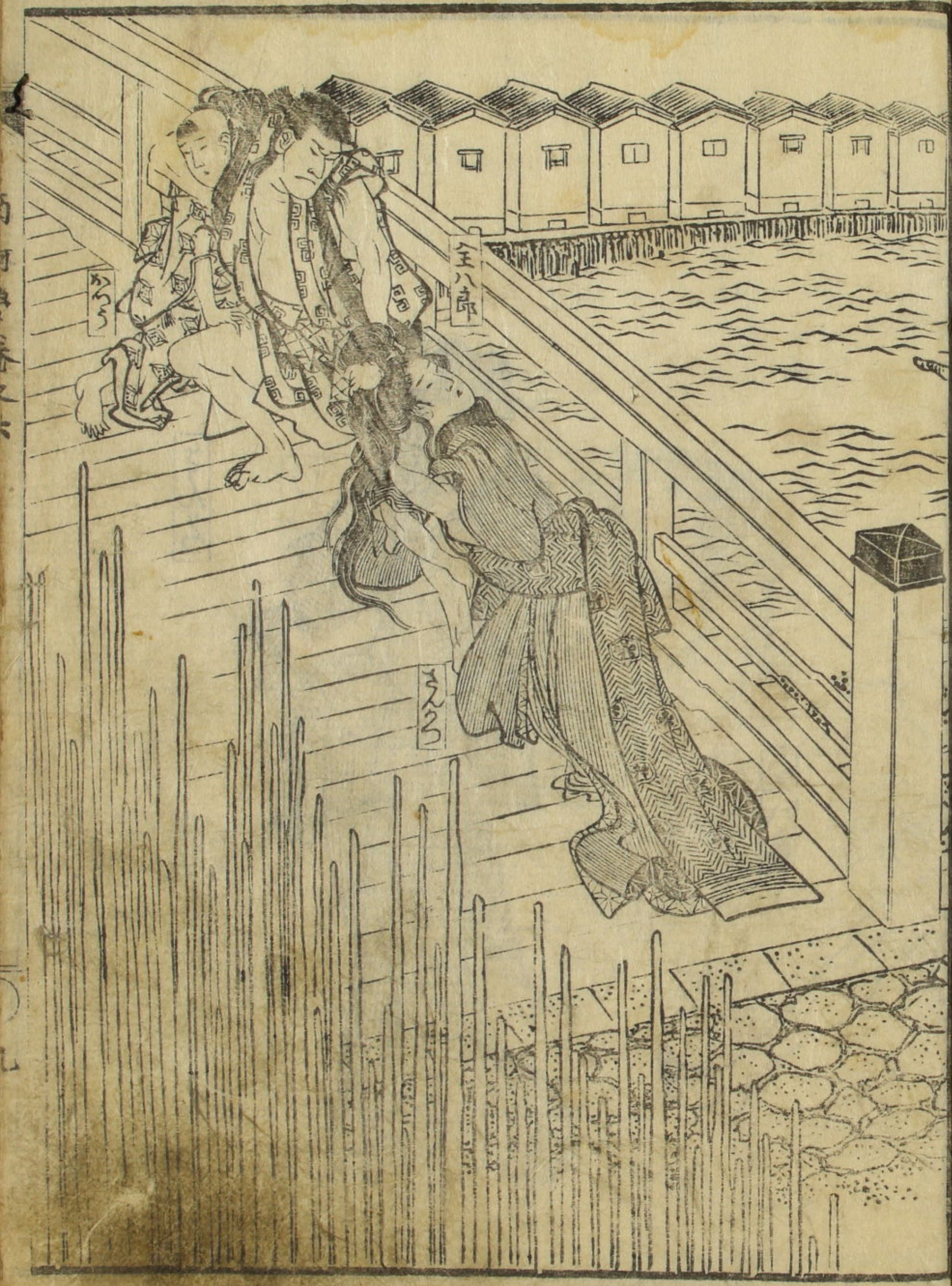
て才七の暮める日の。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 夫の足音とて。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 舞り。恩愛の絆あり。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 才七の子の。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 三つ。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 火。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 の。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 三。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 の。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 三。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。
 の。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。おれも中。

わや誰とも問へなく。共、果て三務八早三と面をわかれし。もしも
る由影をえく。縁類を踏踏りし。七年以前三條河原あり。脚十
足平を叙し。立松平三市の正の仰を稟。搦捕らん。向へり。
受期せよ。罵めぬ。蝶九郎つと走り入り。火鉢をとり。投
げく。初燈滅く。幾と立。灰は咽く。翁も替も。意あり。ど周章
。驚れおそれく。はあ通を。抱きあぐる。三務も。ええ。せん。さるり
り。この隙は蝶九郎の金を残り多く。掻洒く。外面へ逃出さ。羊
七ややくみん。大か奴。後姿の忍め。悪棍の蝶九郎。さよ来
ら。賊をさる。這奴脱。といれを。中刀掻り。追蒐。まじ。
三三も。後。まじ。掛る。六尺棒を。挟。喘。追。ゆ。み。ぞ。三務
ハ。声。を。ぬ。り。立。る。物。を。復。さ。追。捨。ぬ。夜。の。道。る。は。謀。ら。れ。く。

誤る。あ。の。ひ。そ。と。心。べ。ど。と。や。く。も。こ。え。ざ。る。ゆ。先。づ。み。と。あ。は。つ。つ。く。
灰。を。や。く。み。ら。つ。け。ど。後。落。つ。ぬ。胸。を。拍。み。通。を。賺。ら。る。つ。碎。く。
炭。圓。の。燧。を。性。く。燼。の。中。に。掃。入。し。く。初。燈。を。し。記。し。さ。く。あ。る。
又。灯。を。さ。る。後。方。に。忽。地。人。あり。物。を。も。り。抱。き。出。る。河。呀。と
ら。驚。馬。た。る。刃。を。返。り。掻。退。ん。と。さ。る。あ。その。人。し。さ。め。く。袖。を。放。さ。ぬ。
呵。く。と。笑。く。ゆ。あ。や。別。れ。く。六。年。の。事。既。七。年。を。経。た。れ。面。忘。れ
や。さ。る。ん。さ。さ。る。ゆ。の。あ。あ。ん。す。め。ま。七。が。同。僚。さ。り。今。市。五。八
ろ。り。曩。よ。そ。ま。を。付。ひ。出。さ。る。と。三。條。河。原。あり。三。三。は。燧。の。事。
刺。す。七。よ。ら。み。と。放。ら。れ。果。ハ。南。都。を。追。放。さ。牛。馬。も。か。か。り。さ。る。
幸。た。せ。を。さ。る。る。さ。る。さ。る。君。ゆ。え。と。お。か。け。の。あ。は。な。眼。の。あ。は。と。さ。る。あ。は。な。
否。と。い。ふ。も。應。と。い。ふ。も。直。東。の。心。お。か。け。い。た。る。ん。誘。り。と。引。き。さ。る。ま。

新河東志卷之二

三



南水集卷之六



そんせ



全八帛

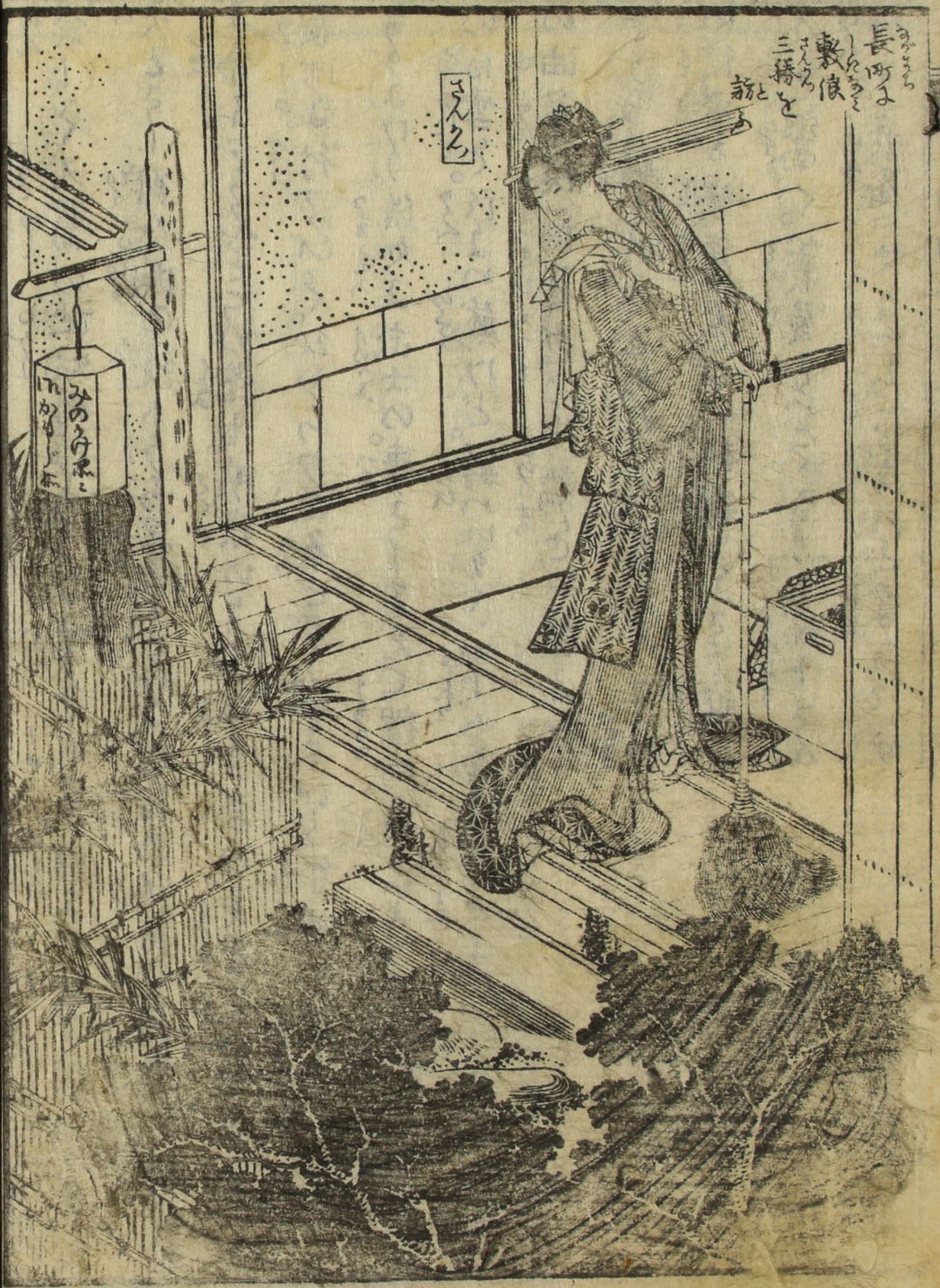


さんろ

南水集卷之六



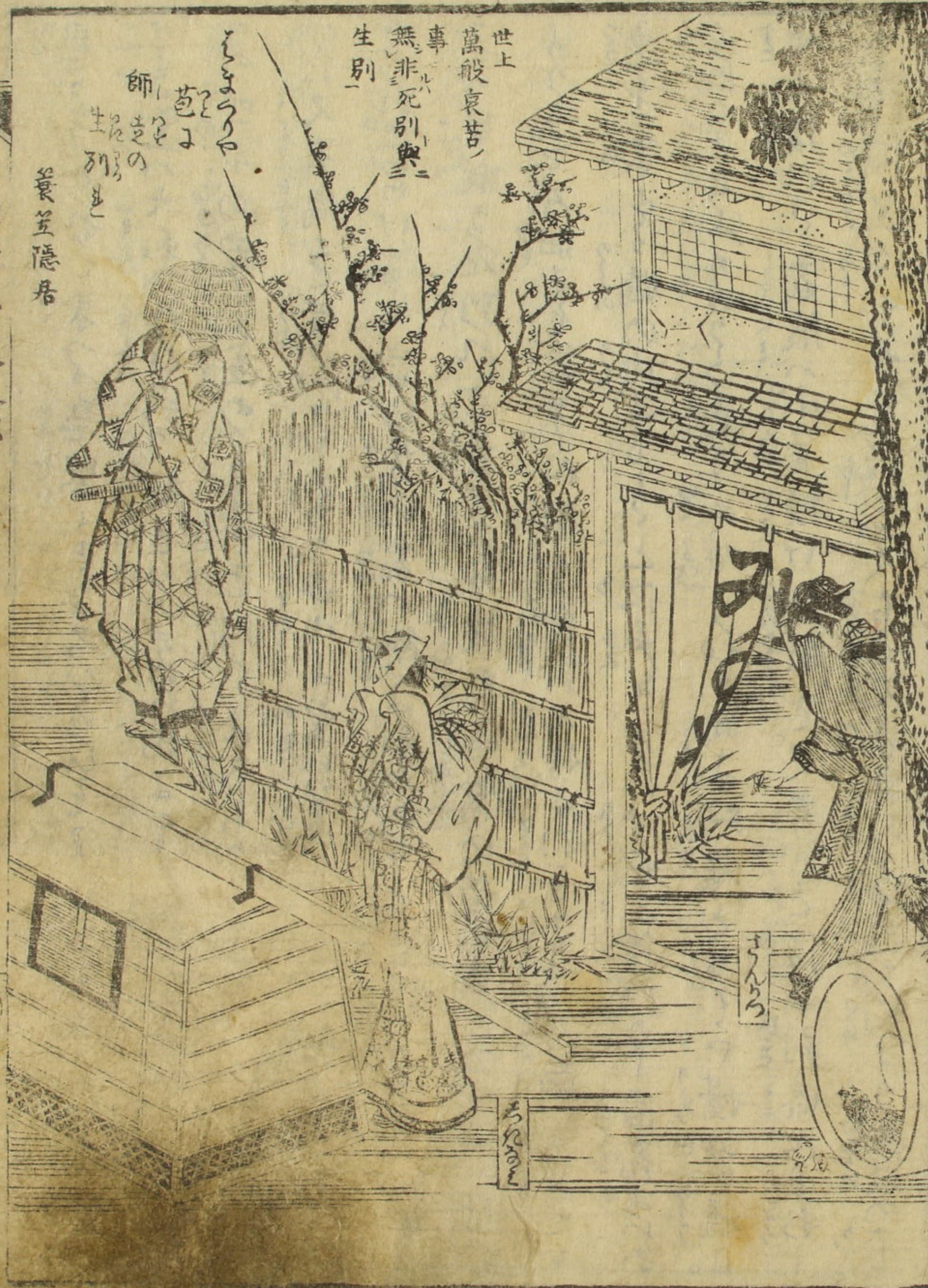
前河津



長所
敷
三
新

みゆき

みゆき



長所隱居



長所隱居

賊とつらんも。登据あ。且己とをゆべとつとも。厚余氏といつることを
 食つ。又七年が経川身とりるすよ世の宮をぬし。刺身價を返さる。
 くれの是乱離の人。竹をりき。忠愛といわれん。ともわけてもすてか死
 べん。今宵あり。さんばとく。そめて自害せむ。平三どのを係累せん。死
 青山の酒さく。そのの礫を千日寺の草の原よて。死よふ。とこあん
 己あん。といひも果ど。さうまらん。とる夫の裳を。二務の慌忙て。西め
 こと。東く。絞首刎られ。主親の面をけん。自ら。自殺せんと。思ひ定めた
 身。を。理あ。と。いひ。け。ね。ど。ろ。せ。よ。と。さ。げ。え。あ。い。と。て
 ち。ま。ぐ。二。務。を。い。ぶ。せ。た。め。う。い。た。あ。ひ。つ。る。今。方。よ。迫。る。身。の。具。を。
 彼。如。よ。て。す。め。り。と。や。と。い。ふ。ま。ら。の。か。ま。く。又。伏。し。君。が。年。末。の。情。を
 答。け。り。と。い。ひ。も。終。ら。ば。夫。の。刀。よ。ま。を。櫛。せ。ば。す。七。急。は。押。ら。ぬ

びよらひ。恨。ぬ。濡。ぬ。先。と。を。家。を。も。厭。へ。夫婦。が。よ。も。厭。ふ。と。あ。い。る。今。こ
 を。身。も。つ。が。ま。よ。う。ひ。く。志。を。改。ま。と。べ。し。只。悔。し。ぬ。白。竹。よ。を。ぬ。死
 び。く。平。三。どの。誠。心。を。吐。よ。ま。る。の。面。目。あ。た。と。身。を。恨。と。理。あ
 せ。二。務。の。く。ら。ら。は。く。有。身。の。親。類。親。と。親。の。夥。り。あ。ら。う。何。れ
 を。づ。れ。と。い。は。ぐ。た。思。を。仇。あ。る。身。の。終。で。あ。く。一。筆。送。さん。と。さ。り。つ
 視。の。蓋。及。く。墨。の。曲。と。ど。直。る。管。の。筆。を。さ。ら。と。視。は。侵。し。
 出。居。の。障。子。よ。あ。く。む。ら。り。

夫木集信史朝臣

と。書。日。寫。せ。ば。す。七。也。さ。ら。も。あ。き。を。と。り。く。
 同集雜十四夜寄内府
 かく。と。い。ふ。う。た。あ。さ。ら。と。う。ら。ま。み。あ。は。鬼。と。つ。ら。あ。ら。ん。ば
 と。さ。ら。ぬ。筆。を。と。ら。ま。ら。ば。外。面。よ。る。親。を。未。だ。捕。子。の。兵。士。相。合。橋。よ

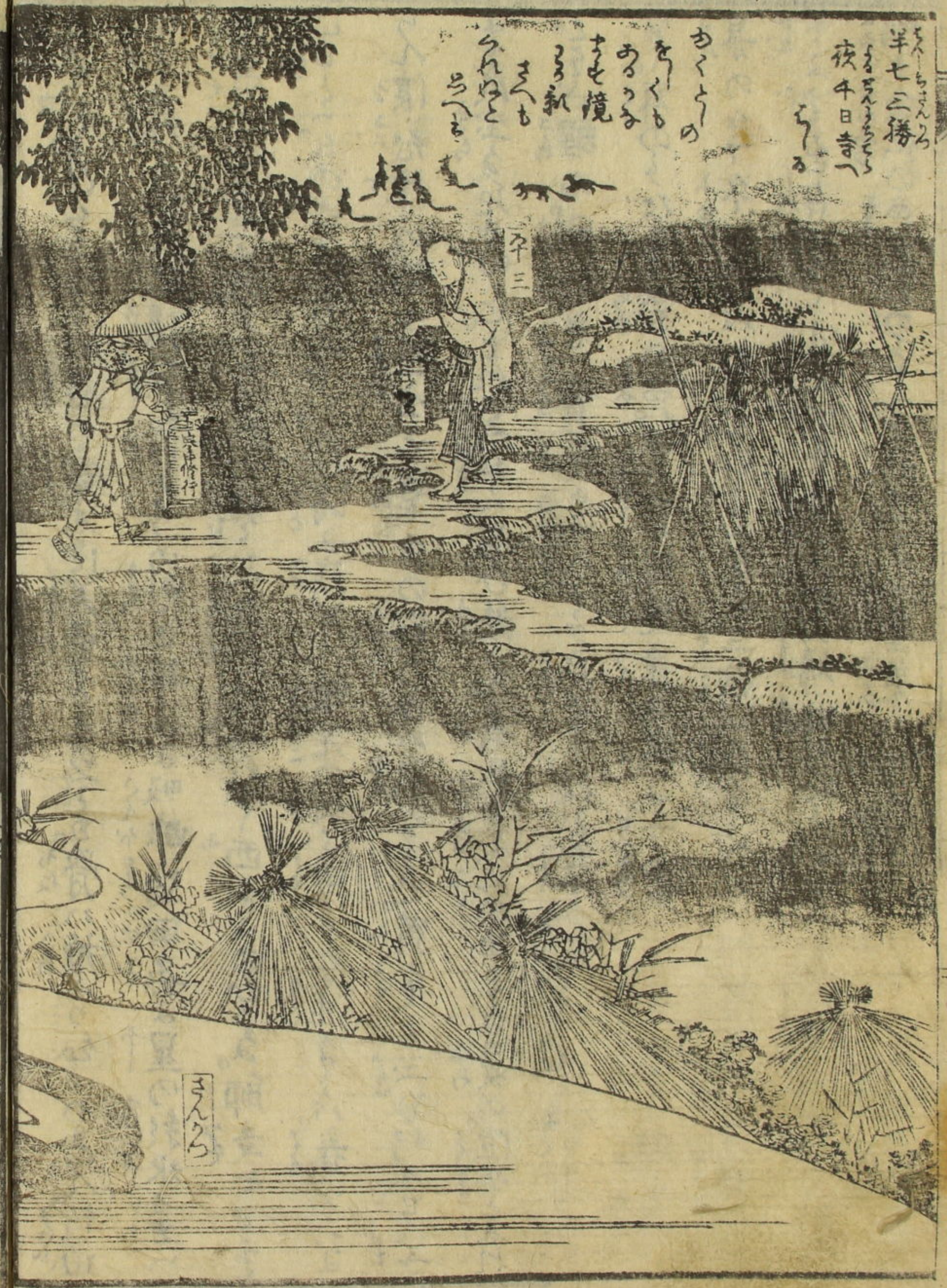
て人を殺し一守七を搦捕らんかよ向のたり。縛受ふといはれり。跳るを引殺せ。雄を雌と撲比と投るを飛踏る又組着をぬり。拂ひて打倒し。ちちとくと投退て誘へ。とく守七の妻のよを引きりぬる。月よの暗に端打たふ門近くぬり来り。卒と直とゆさちがひんりて。その二搭發皆どのあめりやと問隙も荒男の。兵士ホが驚き走よ。守七をくじと追蒐出。そよすむを卒三が足成飛し。丁と蹴倒し。続て懸るをとり。引布らうまりとよ。とゆめり。られ。意もやうど掌を合し。う流る。妹と夫が又よととりて死かゆ。今宵一夜に千日の墓のたりの命あり。

千日守の証

さくね。ひこそるれ夜の傘。もは人前を去のをも。骨の誰うむのまへ。竹田伏見も外見え。只髪をけそりの町を雄ひ。吸道田毎星の影氷る。捨果る。多たのの。あめりと寒に北風は追れ。西をこのむる。師支七日を。二日と。このふもろ。跡は残り。稚児の又よ母と啼る。春のうららん浪花津の梅が笠傘と。養虫の親のふい鬼る。黄金も玉の竹く見ん。よる宝るたりのを。それえ今ハち絶る。喜怒哀樂もる。夏の浮世と。いさ。醒ぬ。間酒者。賣夜商人。うが為る。ねど寒念佛の証の音。え何と。多く。耳のうなる霜の声。常迅速束の間。千日墓は。時よ永祿。某の年。冬十二月七日。ちめて守七三搭ハ立る。印塔の同なる。枯柳の下。守七を。覚放を究る。夫婦物。三搭が十遍。唱る念仏の声を。守七。圖は。腰の刀を。墳の後。又



らんて



羊三七勝
夜半日寺
あぐりの
あぐり
まを境
まを境
まを境
まを境
まを境

平三

まんくら

向木長巻

二人若痛の称名今般とあり。夫婦はらんをばく大は怪と。れり等しく又二
みく。自叙する人やあり。其後三つとてま七が。ぬらび刃をあり揚と。かよふ
待久し。悔さめつ。厚倉二郎太夫友春ハ。戦松曾太尉とくも。蝶九郎
素心をくつて。これを可ぬホコリ。飛が妙はまうある。跡は続く。卒三ハ。通を脊負
ひ。室を花を扶掖喘く。追蒐承く。まよくこ。出と挑灯の火光は照ると。墳の
後。さしゆく。と。妻娘とす六也。間五七尺を隔く。自害。半七ホをえて忽
地は緯切なり。人々この景迹を見く。大驚を夫婦兄弟幼を。通も共
みく。と位式ハ悲く。或ハ呆と。こ。そのゆふと。慌忙つ。走り。抱死記。く
こ。こ。小勲と。今ハ。や。救へく。もの。さ。見。且。ハ。備。る。石塔。二。枚。の。送。虫
を。贈。あ。る。う。その。と。二。所。太。夫。と。對。し。半。七。ホ。よ。し。み。や。各。の。衣。傷。い。と
理。れ。ん。ど。つ。く。の。送。書。の。記。を。え。る。よ。赤。根。半。六。昔。深。利。を。謀。り。て。本。指。の

崇を肩とせむ。遂は米谷なる。差捕樹を伐け。く。忽地。恨く。丹波都を
叙し。更は約よ。そむ。三。務。を。失。ひ。戦。松。氏。と。智。縁。を。締。し。る。み。へ。つ。く。ら
ぬ。る。藤。子。の。う。ら。の。曉。う。ら。の。近。曾。守。七。ハ。三。務。を。ね。く。長。町。ハ。活。業。と。傳。へ。ば
い。う。憤。は。堪。び。く。その。虚。実。を。あ。ん。為。よ。昨。夕。潛。は。五。條。の。家。を。潛。び。出。嚮
よ。妻。娘。と。三。務。と。親。子。の。名。告。せ。始。終。を。竊。け。り。と。え。し。と。夫。婦。の。忠。孝
を。烈。を。あ。つ。く。懺。悔。後。悔。と。ま。つ。く。自。叙。する。の。之。預。け。三。條。河。原。あ。つ。く
二人の悪根を叙し。又昨夜相合。摺。あ。つ。く。全。八。を。殺。せ。り。の。の。す。六。と。市。の。正。入。放
恩。人。笠。松。平。三。と。か。子。半。七。を。救。ひ。あ。つ。く。と。の。り。又。妻。娘。の。送。書。の。二。人。の。女。兒。が
か。探。の。比。る。た。ま。う。く。妻。且。三。務。が。死。を。究。る。氣。色。を。猜。し。ま。ふ。あ。つ。く。立。て。て
害。を。報。へ。り。か。子。共。ホ。心。死。を。あ。ひ。と。う。厚。倉。食。ぬ。か。夫。を。練。く。是。彼。の。身。の。あ。つ。く
よ。計。じ。の。は。び。く。も。孫。の。お。通。が。の。不。便。なる。典。借。の。年。外。の。恩。也。と。い。ふ。の。難。い。の

ふん。ねどぢひうびざうけ色バ。

夢ゆめふくくふく似にきくるき夢ゆめうう邯かん墓ぼままあり

と口くち誦じゆくるくううううもも。惜しのむむくくのの何なにのの事こと今いまはは吾われ寺てら難なん波な新しん地ちありあり土つち俗ぞくののりり入い十じゆ日にち寺てらにに自まづりりのの遺いるることこと

ののまま七しちををええんんかか古こ墳ふんとといいふふのの金きん毘ひ羅ら堂どうののららうう向むかうう左さ側がわののああれれはは六ろく三さん

のの名な号ごうののをを彫てい著しやくうう。彼かのめめりりくくをを傀かい儡らい棚たなのの戯ぎ曲きやくはは他たりりたたるるののあありり

眼まなこをを過するるふふままままくく四し本ほんありあり。又また彼かの亦またかか送そう書しよ當たう初しよ入い口くちはは膽たん炙あせせててやや。

眠ねむ竹たけとといいふふののよよ三さん勝しやうまま七しちがが紀き念ねんありあり。ううをを置おけけ置おけけのの曲きやく子こありあり。ききややくく

辨わるるれれどど只ただそのその要えい略りやくををいいふふののとと。

▲作者馬琴ばきんのの書しよをを稿こうににををつつるるのの夕ゆふ燈とうをを掲か案あんをを附つけけてていいふふ。

嘆なげ息いきくく云いむむうう信しん濃のう前ぜん司し長ちやう入い道どうのの平へい家け物ぶつ語ごのの原げん流りゆうせんせんと

くく他たりりくくうう後ごのの人ひとへへくく由よし見みざざればれば只ただ尋じん常じやうのの軍ぐん紀きととののととやや

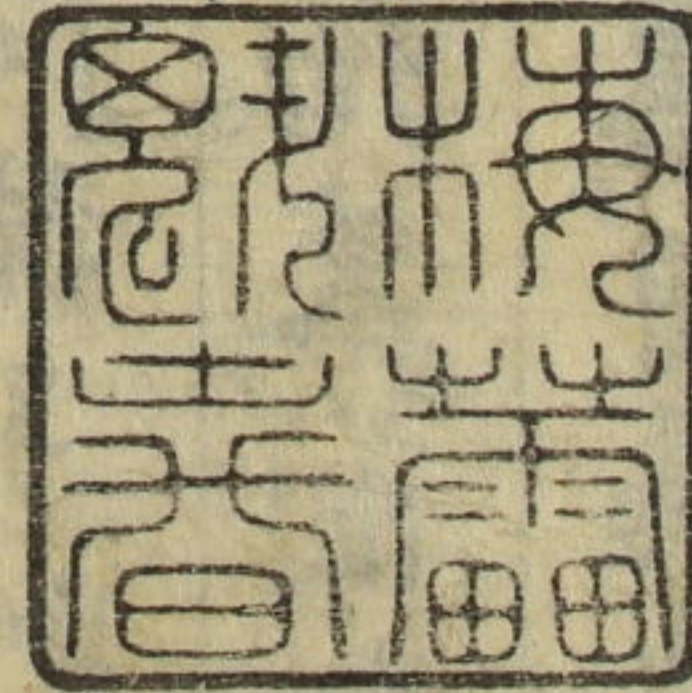
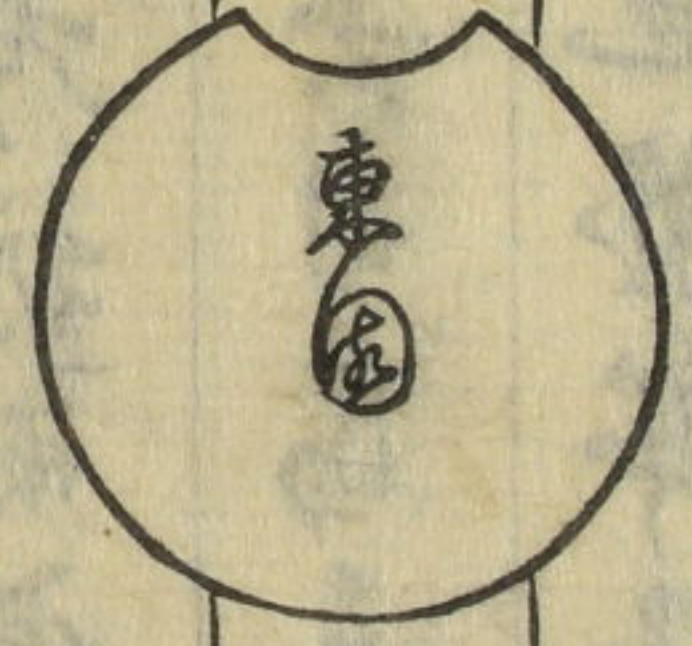
めり。今いまもも南なん柯か夢ゆめのの讀よみせんせんととくく他たりりくくとと閱えん者しやのの戯ぎ曲きやくめめたるたるるをを笑わらふふものものやや。才さいのの長ちやう短たんとと物ぶつのの巧こう拙せつはは且かつくくいいふふにに不ふ為ゐいい雅が俗ぞくありあり。又また流りゆう行ぎやうありあり。夫その流りゆう行ぎやうのの人ひとははああるる故ゆゑおお我われははああるる故ゆゑこれこれををああららむむとと善ぜん夫ふ。



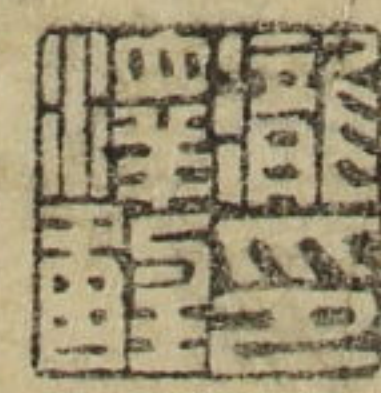
客有問於予曰曲亭先生何種雅樂之曲
予應之曰漢書陳湯傳云樂已廢曲亭
是美亦尚焉琴何也曰取十刻鈔野
古公
句寸非馬卿彈琴未能身異鳳史吹笙
拙以為我雅也先生嘗慕司馬也
是以名解字頊言解蟹也郭璞江賦云頊
結腹蟹水母目蝦其象名於蟹也王
所夢亦是長旭故事也客欣然而喜曰

哉此君一夜話勝似十年學思向常以
為馬琴熟字絕考據而今問諸子則
然得其淵源顧昔者司馬長旭慕蔭相如
為人後名相如今也其亭子慕司馬也
寸而名解稱焉琴以我雅和漢今昔異
其趣宜同年而後之先生聞之改曰子
蓋知彼玉典石而於賢于茲也差夫似而
非之者齊魯曾參字我居二子深蓋之復

莫言客唯^ト而退^テ予^ニ時^ニ方^ニ東^ニ師^ニ余^ニ校^ニ南^ニ柯^ニ
 夢若干^ト客^ヲ因^テ應^テ次^ニ是^ニ能^ラ附^ニ於^テ第^ニ後^ニ云^ク
 文化四年乙卯冬十月中浣夕子東園魁
 蕃子書^ス於^ニ東^ニ都^ニ策^ニ堂^ニ軒^ニ時^ニ雨^ニ窗^ニ



心志 曲方亨る琴



魚工 為所小每



割刷 高橋待人

俊寛僧都嶋物語 全六冊
 阿深久松傳秋七種 全五冊

桂華粒波新語 全六冊
 瀧口横笛想夫憐 全五冊

梅川忠吾衛大和紀行 全六冊
 糸櫻赤繩奇編 全五冊

右曲亭先生近日著編、題目以今新聞録十之二、内人琴、

○戊辰孟春發兌木蘭堂

三勝半七節操全傳南柯夢

曲亭主人著 全六冊

阿波北鳴門

北齋著 全五冊

由利稚塾居鷹

北齋馬著 全五冊

江戸書肆

須原屋市兵衛

文化五年戊辰正月吉日發販



溪川森下町

復本揔右衛門 復本平吉 梓

江戸機緯

